

1. 評価結果概要表

作成日 2008年9月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1275900213
法人名	株式会社相生
事業所名	ゆうなぎ九十九里
所在地	〒283-0102 千葉県山武郡九十九里町小関2316番地1 (電話) 0475-70-7333

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年9月18日	評価確定日	11月6日

【情報提供票より】(20年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤専任2名, 常勤兼務1名, 非常勤8名, 常勤換算4.8名	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000円	その他	食材費43,200円, 水道光熱費13,200円, その他実費	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(230,000円)		有りの場合償却の有無	有(期間:2年間)
食材料費	朝食	360 円	昼食	420 円
	夕食	540 円	おやつ	120 円
	または1日当たり 1,440 円			

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.5 歳	最低	71 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人静和会 浅井病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年にオープンし、今年で3年目を迎える。同ホームは九十九里の片貝海岸の程近く。最寄り駅はJR東金駅だが、車でのアクセスが便利である。ホームは1ユニット9名。こじんまりと家族的な雰囲気をかもし出している。周囲は魚の加工業者と農家が多く、獲れたての魚を貰うことも多いという。母体は不動産業を営む会社であるため、ホーム建物も、広々として居心地がよい。職員は笑顔を大切にしてお客に接しており、本人本意のケアを行っている。九十九里町の素朴で穏やかな暮らしを体現したホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	カンファレンスとケアプラン作成の連動が無かったことについては、話し合いの内容を計画に反映させるようにした。防火管理者の講習を受け、消防署の指導の下、避難訓練を実施する予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票は職員全員で手分けをして作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	概ね3ヶ月に一度程度の割合で開催している。議事内容は主としてホームの行事報告や入居者の生活の様子など。運営推進会議の議事録は、ホームページでも公開し、誰でも読めるようになっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームのバーベキュー大会やクリスマス会などの行事の際には家族も招き、意見要望などがあればその機会を利用して聴取するようにしている。運営推進会議への参加も促してはいるが、参加者は少ない現状である。面会も家族によって頻度に差があり、すべての家族から意見・要望を聴取できているとはいえない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小関納屋地区の町内会に参加し、祭りや地域清掃などを行っている。敬老会の行事にも参加したり、近所に散歩した際に、地域住民と交流を行っている。魚を貰うことがしばしばあり、貰ったイカを入居者が塩辛にして、近所に配ったこともある。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりのペースにあった、その人らしい生活が安心して出来るようにすることをホームの理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に笑顔を絶やさないように努め、理念に基づいたケアができるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	獲れたての魚を貰ったり、貰ったイカを塩辛にして近所にお裾分けしたりと、港町ならではの交流を行っている。地曳網を引いたり、町内会の行事に参加したり、地域と密着した生活を送っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員・管理者とで手分けをして作成した。前回の評価を前向きに受け止め、カンファレンスとケアプランの連動を持たせる、防災管理者の講習を受講して避難訓練を行えるようにするなど、改善を進めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一度のペースで開催している。会議内容は、主としてホームの行事報告や入居者の生活の様子など。運営推進会議の議事録は、ホームページで公開している。		議事録をホームページに掲載し開かれた運営推進会議の工夫されているが、定期的な報告や情報交換にとどまらず、評価への取り組みや参加者の質問、意見、要望を話し合い具体的なサービス向上につなげていく事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	九十九里町の健康福祉課とは運営推進会議等を通じて連携を取っている。地域包括支援センターとは現在あまり関わりを持っていない。町議会議員などがしばしばホームを訪れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ゆうなぎかわら版というホーム便りと、一筆箋による手紙で、入居者の暮らしぶりを伝えている。ホーム行事に合わせて家族会を開催し、積極的に意見交換をするようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、行事兼家族会の際に出た意見は、ケアや運営に反映させるようにしている。しかし大きな意見・苦情等は出ていない状況である。		家族によって、ホームへの訪問回数に差があり、まんべんなく意見聴取ができていたとはいい難い。入居したらあとはホームに何もかもお任せ型の家族にも、もう少し働きかけを行い、関係作りを行うことが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員が入った際は、ベテラン職員が付いて仕事を教えながら馴染んでもらう。いきなりすべての入居者と関わるのではなく、少しずつ接していくようにして入居者への負担を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護労働安定センターや千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会主催の研修に参加している。また職員が働きやすくするため、就業規則、特に休暇や給与については、きちんと定めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に参加しているが、お知らせ文書を受取る程度である。九十九里町には認知症高齢者グループホームは3件のみで、特に交流等もない状況である。		同業者間の交流から得るものは多くあると思われる。グループホーム連絡会などを通じ、積極的に情報交換の機会を作ることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居申込みがあったら、家あるいは病院にホーム職員が面会に行く。事前にどのような家庭環境にある方なのか、入居希望者本人の状況などをしっかりと聞き取りした上で、ホーム職員全員で情報を共有し、受入れを行う。体験入居を利用することも出来る。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家事全般、畑の収穫、庭の草取りなどを、職員と入居者が共に行っている。魚のさばき方や加工などは、職員が入居者から教わることが多い。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>月1回開くケア会議において一人ひとりの情報の変化の確認、共有化を図っている。把握が困難な場合は、生活歴から探ったり、業務記録に会話形式で記入して、その人の思いを汲み取る努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人、家族、計画作成担当者、居室担当職員など、必要な関係者と話し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的なケア会議や朝夕の申し送り時に入居者の様子を報告し合い、必要があれば随時、計画の見直しを行う。また定期の見直し時には、入居者個々の状態に応じて目標の変更や継続を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望による通院等の送迎、入居者による外泊や外出の希望など、要望に応じて柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常はホームの協力病院をかかりつけ医とし、夜間の救急時にも対応してもらっている。入居者本人が希望すれば、個々のかかりつけ医にも受診出来る。現在は訪問歯科診療を検討中である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症以外の内科的な疾病を把握し、家族や担当医と相談し関係者全員で方針を考えることにしているが、具体的にはまだ決められていない。		今後、重度化した場合やターミナルなどの要請があった時に、ホームとしてどこまで受け入れるか方針を検討することが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	バリデーションと呼ばれる、認知症高齢者とのコミュニケーション手法の技術を取り入れるなど、入居者に尊敬と共感をもって接するように職員間で意識を高め合っている。個人情報保護については、記録類を決められた場所に保管するなどして気を配っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活スタイルを把握した上で、生活にメリハリがつくよう配慮している。また、入居者個別の動きに合わせられるよう、職員の数を増やして対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食準備を入居者が手伝って、活発に動いていた。和やかな食事のあとは入居者が率先して後片付けを行い、職員は見守りに努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば日中の人出がある時間帯に臨機応変に対応し、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることは自分で行い、入居者それぞれが、何か役割を持つようになっている。気分転換のレクリエーションや外出も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、入居者の希望を聞いて外出している。外出したがる人には個別に聞き取ったアセスメントを利用して、希望に沿った支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関ドアは解錠している。昨年施錠していた、ユニットから玄関へ出る通路にはセンサーを取り付けて改善を行った。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力が得られるように運営推進会議等で働きかけている。避難訓練は実施されていない。		早急に消防署の指導を受けた避難訓練を実施すると共に、地域協力体制の確立、職員間での避難誘導マニュアル等の作成などが促される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の水分・食事摂取量を記録し、週に1回体重測定を行っている。ご飯の量や塩分など個別に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者とともに製作した作品やレクリエーションで撮った写真が飾っており、アットホームな雰囲気が出ている。廊下にはソファが設置され、思い思いの場所で過ごせる様に配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを持参する事が出来、家族とも相談しながら居心地良く過ごせる環境作りをしている。		